

令和5年度 第1回山形県スポーツ推進審議会 議事録

日 時 令和5年8月1日（火） 午前10時～正午

場 所 県庁1502会議室

出席者 委員 全19名中15名出席

事務局 県教育局教育次長、県教育局スポーツ保健課長、他9名

1 開会

事務局が委員出席過半数により審議会が成立することを報告し開会

2 あいさつ（山形県教育局教育次長）

「山形県スポーツ推進計画」について令和4年度までの取組実績への評価・検証、「次期計画策定に向けた方向性について、委員の皆様から御意見、御提言を賜りたい。

3 報告

事務局より各項目について説明

- | | |
|-----------------|-------------|
| ・計画期間の延長 | 資料1 |
| ・現行計画の概要 | 参考資料1-1、1-2 |
| ・令和4年度の実績と今後の対応 | 資料2-1、2-2 |
| ・本県の部活動改革 | 資料3 |

① 坂上委員（山形県中学校体育連盟会長）

【部活動改革の現状】

- ・国からの要請もあり、中体連では、県大会、全国大会の参加資格緩和により、学校以外の参加を認めている。
- ・県内では30以上のクラブが県中体連に登録しており、県大会に参加したのは9クラブである。
- ・部活動改革には、地域移行と大会の参加資格の大きな二つの課題があり、中体連としては、大会運営・参加資格の対応をしている。地域移行は、市町村教育委員会等が中心に対応している。
- ・これまでの部活動が担ってきた役割が非常に大きい。情勢も変わり、我々もどれが正解かわからない中で、様々な関係機関と調整しながら進めていきたい。
- ・部活動を地域に移行することで、学校を含め地域全体で子供たちのスポーツ活動・地域活動を支えていけると良いと思う。

② 高橋（智）委員（山形県PTA連合会副母親委員長）

【部活動改革の現状】

- ・ある市ではクラブチームを作りたいと考えていても、人数・学校が多いためか、連携が取れずにクラブチームが作れない、といった意見を聴いている。

- ・県大会にはクラブチームでの参加が可能だが、地区大会は学校の合同チームとしての対戦が求められる場合もあり、部活動とクラブの狭間という状況も実際にある。
- ・部活動には入っているが、クラブチームに入っていない生徒もいる。クラブチームは活動費が全額自己負担というのがハードルになっている場合もあるようだ。
- ・指導者の面では、その競技に取り組んでいた部活の先生が指導者として対応するのが一番良いが、クラブチームに移行した場合に、指導者が無償で対応してくれるかが課題。実業団から戻ってきた選手に声をかけても、様々なクラブチームから声がかかり、報酬が高いクラブチームに行くことが多いため、指導者の確保も難しい。

③ 高橋（美）委員（西川町スポーツ推進委員）

【部活動改革の現状】

- ・スポーツが文化として地域に根付いていく中で、部活が担ってきた役割は大きい。
- ・クラブに移行することで勝利主義が強くなり、部活動が担ってきた、子供たちの心の成長や仲間との絆といった精神的な部分の成長が無くならないか懸念している。
- ・特殊競技では、地元で大きな大会が開催されると、会場の都合で中学生が部活動をできない状況がある。そのため、保護者や地域の人々の支えがあり、朝や夕方に自主練をしている。
- ・県の施策で、選手を強化する部分と地域のクラブとして受け皿を担う部分がある。競技人口が少なく、その中でもトップレベルで成績を残している競技は、お金や指導者、練習場の確保等で、両立するには大きな課題がある。

4 審議

事務局から、各項目について説明

- ・計画策定のスケジュール 資料4
- ・本県スポーツの状況 資料5

① 高橋（美）委員（西川町スポーツ推進委員）

【スポーツ活動の推進】

- ・子供のスポーツ実施率の調査など、学校単位で実施している調査が地域のスポーツ推進委員等まで共有されていないため、情報を共有できる体制を整えて頂き、地域スポーツに関わる団体と学校との繋がりを強化していきたい。

② 小松委員（山形大学地域教育文化学部講師）

【部活動改革の現状】

- ・現在、県内のある部の地域移行に携わっているが、なかなか進まない状況にある。先ほど話があった、既にクラブへ移行している例を教えてほしい。

○ 回答 坂上委員（山形県中学校体育連盟会長）

- ・ある地域の部活動では、中学校で実施していた部活動が、少子化で部員が減少し、怪我等で欠場すると試合に出場できないため、クラブ化して出場している。
- ・課題としては、学校の部活動で試合に出る予定が、クラブへ行き部員が減り、その学

校が試合に出場できない状況や、技能的に優れている生徒がクラブへ行くことで、負けてしまう学校も出てくる。

- ・部活動の地域移行は時間をかけないと、世の中・社会から認められるのは難しいと思う。

③ 熊坂委員（（公財）山形県スポーツ協会スポーツ指導員）

【障がい者スポーツの推進】

- ・障がい者と健常者との交流に参加し、高齢のアスリートが多く、若手のアスリートが少ないと感じた。パラアスリートもドリームキッズのような事業があれば良いと思う。
- ・J-STARにて、国でパラアスリートの募集をしているが、障がい者は健常者より一歩踏み出すことが難しいため、背中を押してくれる誰かがいることは大切である。
- ・指導者においては、障がい者に対する知識がないため交流会への参加者も少ない。また、指導者も高齢化している。障がいに対する理解・知識が必要である為、指導者育成の機会があれば良いと感じている。また、リーダーバンク山形の周知があると良い。
- ・オリンピックメダリスト育成事業で、パラリンピックを目指す選手も含めてほしい。
- ・ジュニア期からの一貫した指導では、小さい時から競技と言われても、高校の部活動が終わると辞めてしまうことが多い。運動遊びという体育の面から始め、部活動、社会人というように、段階的に進めると良いと思う。

④ 佐藤委員（山形県高等学校体育連盟会長）

【高校部活動の現状、指導者の現状、スポーツ環境の整備】

- ・高校の部活動は、学習指導要領にて「教育の一環として」と位置づけられており、今後も学校対抗の大会等は実施し、クラブでの参加は認めていない。しかし、少子化の影響で学校の部活動として行えず、外部クラブで活動している生徒もいる。
- ・競技団体や高体連が定める参加資格では、登録を一つしか出来ない競技があり、外部クラブに入ると高体連の大会に出場できない。また、二つの団体に登録を出来る競技では、高体連の大会等に出場できるが、外部クラブにも参加している生徒と学校の部活動のみの生徒に差が生じ、学校の部活動のみの生徒が大会に出られない場合がある。
- ・部活動は日本独特の文化であり、技術を教えるだけではなく、人間として大事な部分を教えるため、ヨーロッパでは、日本の部活動が非常に素晴らしいという見方もある。
- ・アメリカではクラブ活動の環境が整っており、指導者がクラブ活動への指導の収入のみで生活出来ている。
- ・地域移行、クラブ化の裏には解決すべき問題が多く残っている。本来そちらを整理してからクラブ化するべきと思う。同時並行で行うと、一番負担になるのは生徒であり、今まさにそういう状況も生じてきている。県が主体となり、関係機関と連携しながら、子供たちに負担がない取り組みをお願いしたい。
- ・高校のスポーツは、指導者が不足している。また、県外にはお金がかからず、良い環境で活動でき、施設が充実した高校があるため、優秀な選手は県外に出ている。中学生になるときから、県外へ行く生徒もいる。
- ・私立高校では、スポーツを通して学生を集める学校もある。親御さんや子供たちも敏感になっており、教育格差にも繋がると感じている。支出を惜しまず、親も一緒に子

供の夢を追いかける傾向にある。

- ・強化するための施設整備、学校の魅力をどう付けるかが、選手・生徒の確保では非常に大事な視点だと思う。

⑤ 阿部委員【議長（会長）】（東北文教大学短期大学部子ども学科准教授）

【施設の有効活用、幼児期のスポーツ活動】

- ・幼児教育の場である遊戯室、園庭の有効活用を提案したい。広さや種目の制約があるが、保育園・幼稚園・こども園等々から募り、日曜日等の保育がない日に、遊戯室等の貸出で場所の確保が出来るのではないかと思う。また、遊戯室等にポスターがあれば、子供たちも興味を持ち、スポーツへの参加に繋がると思う。
- ・幼児期の一番難しいところは、来てもらうことであるため、こちらから行くことが大事である。
- ・優秀な指導者は、その時期、その発達に重要な運動や心を提供できるため、問題は優秀な指導者を養成すること。勝利に向かう時期、そうではない時期も、優秀な指導者であれば分かっている。
- ・保育の場は90%以上が私立で、県がどうサポートするか難しい問題である。種目・指導者等を園と話し合う必要はあるが、利用料を取れるなら実施したい園があると思う。

⑥ 早坂委員（山形県スポーツ少年団本部委員）

【スポーツ活動の推進】

- ・幼稚園や地域の集会所を訪問し、ダンス教室やヨガ教室を行っている方から、ハイレベルの子たちを練習させる施設、設備に苦勞しているとの意見を聴いている。
- ・指導者の仕事だけで生活出来るか、大変難しいところであり、東京等の所得の高いところで指導を行っている人は、地元に戻ってくる決断がつかない。
- ・最近では、サーフィンやスノーボード等、今まで行っていない種目の人が、体感を鍛え、回転の感覚を覚えるためクラブを利用していることもあり、スポ少を立ち上げた時とは状況が変わってきている。

⑦ 井間委員（山形県立米沢栄養大学健康栄養学部講師）

【スポーツにおける食育】

- ・本学の学生は一学年の定員が42人で、「将来スポーツ栄養士になりたい」と希望している学生が7～8名程度いると感じている。しかし、大学ではアスリートとの接触の機会は少ないため、学生とアスリートが接触する機会があれば良いと感じている。

⑧ 奥山委員（（公財）山形県スポーツ協会常務理事兼事務局長）

【スポーツ推進計画策定にあたっての意見】

- ・平成25年策定時にこの計画策定に関わり、そのときは国のスポーツ基本計画が、地方スポーツ推進計画を定めるための指針となるように策定されていた。しかし、今回の国の第3期スポーツ基本計画では、今後の5年間で、総合的かつ計画的に取り組む施策が12出ており、平成25年度とは異なる。都道府県教育委員会はスポーツ基本計画を参酌して、地方の実情に即したスポーツ推進に関する計画を定めるとされている。

また、県の計画を市町村が参酌すると思うので、骨子等を十分検討してほしい。

- ・今年、全国学校体育研究大会が約 50 年ぶりに本県で開催される。開催に向けて機運醸成し、大会後も本県のスポーツ振興に生かすことが重要と感じている。
- ・県スポーツ協会には競技団体から施設の相談があるが、競技団体によっては、施設がないと競技の存続にも関わるため、切実な問題である。施設整備のため、本県での国体開催を推進する競技団体もある。また、令和 16 年に国体 2 巡目が終わり、日本スポーツ協会では、「来年には 3 巡目のあり方を決定する」と発言しているため、それも参考にして施策へ活かしてほしい。

⑨ 市川委員（山形県身体障害者スキー協会会長）

【障がい者スポーツの推進、スポーツを通じた共生社会の実現】

- ・東京パラリンピックで障がい者スポーツ、障がい者への理解が高まると思っていたが、コロナにより思うようにならなかった。
- ・国体へ出る選手層も少なく、障がい者の選手も高齢化している。
- ・障がい者スポーツにおいても、勝つためには栄養やドーピング等のことも知る必要がある。自身も長野パラリンピックでは練習場所がなく、栄養のことも分からず苦勞した。これからの選手には情報が入るように、様々な部門で連携し情報交換してほしい。
- ・国の方針としても、障害の有無に関わらず、子供、女性、大人と一緒にスポーツに参加し、楽しめるスポーツと変わってきている。

⑩ 後藤委員（山形県企業スポーツ振興協議会幹事）

【スポーツによるまちづくり、スポーツ活動の推進】

- ・企業スポーツを維持することの難しさを非常に痛感している。そのような中、地域スポーツを通して地域貢献を続けてきた。山形県に企業スポーツで受け入れる企業があることは、非常に重要なことだと思っている。
- ・様々なスポーツを受け入れている企業があるため、力を合わせながら、維持向上していく取り組みを、今後も継続していきたい。
- ・指導者の面では、報酬を渡すため指導員になってほしいと依頼される場面もある。しかし、企業によっては副業禁止の場合もある。教員等の副業の話があったため、副業可能を推進することも大事と感じている。

⑪ 大内委員（天童市教育委員会委員）

【スポーツ活動の推進】

- ・体操の指導員を、ほとんどボランティアで実施している。クラブのコーチだけでは生活は難しい。県全体でスポーツに関わる人が、それだけで生活できる魅力あるスポーツ業界になるように、スポーツに対する金銭面での底上げを後押ししてほしい。

⑫ 岡崎委員（山形県広域スポーツセンタークラブアドバイザー）

【スポーツ活動の推進、スポーツを通じた共生社会の実現】

- ・総合型地域スポーツクラブでは生涯スポーツ推進の一翼を担っていけるような活動をしている。部活動改革では、総合型クラブが地域のジュニアクラブ、ジュニアスポー

ツの受け皿となれるように、試行錯誤をしている。

- ・指導者の確保もあるが、指導者が子供たちへ指導するにあたり、自分が受けた指導ではなく、今の指導の方法を学ぶ必要がある。そのため、研修会等が必要と感じている。
- ・モルックやボッチャを取り入れているクラブもあり、障がい者や健常者が一緒に楽しめる活動を行っている。障がい者スポーツ協会とも交流し、派遣頂きながら活動していきたい。
- ・各市町村に総合型地域スポーツクラブがあるので、活用していただきたい。

⑬ 大戸委員（山形県小学校体育連盟連絡協議会代表）

【多様な主体によるスポーツ機会の創出】

- ・部活動に対してのニーズが多方面からあり、それを全て学校で担っていた。部活動の地域移行は、何十年もかけて作ってきたシステムを止めようとしているため、苦しい思いをしながら進めることになると思う。
- ・中学校、高校の部活動は、ある程度残るが、子供たちの思考に合わせた部活動を模索していく必要がある。
- ・次期計画策定に係る検討の方向性で、「部活動改革」が大きく扱われており、部活動に対してのウエイトが大きい。あまり言葉を出さずに、進めるところは進める必要があり、そのような検討の方向性の表し方が必要と感じた。
- ・子供たちの部活動に対するニーズがなかなか聞こえてこないが、今も昔もこれからもあまり変わらないと思う。体育、部活動が大好きな子供たちが多いので、そのニーズに応じる、本県のスポーツ推進の方向性になれば良いと思う。

【議長（会長）】

- ・委員の皆様から大変貴重なご意見をいただいた。事務局においては、本日の意見を参考に計画案の作成を進めて頂きたいと思う。

5 その他
特になし

6 閉会